

第 19 回 東海村地域公共交通会議

【日 時】 平成 30 年 3 月 22 日(木) 13 時 30 分～

【場 所】 東海村産業・情報プラザ 多目的ホール

【出席者】 (委 員) 出席 15 名／欠席 8 名

1. 開会(まちづくり推進課)

2. あいさつ

(萩谷副村長)

- ・ 本日は、年度末の大変お忙しい中、第 19 回の東海村地域公共交通会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。
- ・ 年度末は何かと落ち着かない時期であり、役場でも4月に組織改編が予定されております。公共交通の担当は、まちづくり推進課から企画経営課に変わることになりますが、これまで積み上げてきた実績をベースに更なる公共交通網の充実を目指すことには変わりありませんので、引き続きご協力をいただきたいと思います。
- ・ 平成 26 年 6 月に前身の委員会から名称を変更し、新たなメンバーを加えスタートした東海村地域公共交通会議ですが、今回が19回目の開催となります。この間、茨城大学との調査研究事業、住民・利用者ニーズの把握、茨城交通との連携による路線バスの実証実験など、一歩ずつ確実に前に進めてきたところであります。
- ・ その成果として、今年度の利用状況は、デマンドタクシーが約 42,000 人、路線バスが約 53,000 人、総利用者が約 95,000 人と見込まれており、路線バスの取組みを本格化させた平成 27 年度に比べて、約 12,000 人、14%の増となっております。年間総利用者 100,000 人という節目にもあと一歩まで迫ってきました。
- ・ これも一重に、皆様と共に 19 回もの会議を重ね、本村の公共交通の在り方について議論し実践してきた賜物であり、委員の皆様に対しましては、改めて感謝申し上げます。
- ・ しかしながら、公共交通を維持・確保するためには、採算性が最大の課題であり、更なる利用者数の増加を目指して、今後も歩み続ける必要があります。より良い公共交通網を目指して今後も皆様とともに協議を重ねていきたいと思いますので、引き続き、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。
- ・ 本日は、今年度の利用状況やデマンド利用者の分析、新路線スタートに向けた活動などご説明させていただきます。現状の評価や今後に向けた課題など意見交換できる時間も設けたいと思いますので、様々な立場・視点からのご意見をよろしくお願いいたします。

3. 協議事項

(1) 公共交通の利用状況及び利用傾向の分析について

○下記資料に基づき説明

(資料 1) 公共交通の輸送実績【平成 29 年度】

(参 考) 公共交通の輸送実績【平成 28 年度】

(資料 2) デマンドタクシー平成 28 年度利用結果

(2) デマンドタクシーや路線バスの利活用に関する意見交換

(委員) デマンドタクシーのキャンセル対策について状況を教えていただきたい。

(委員) キャンセル対応についてはオペレーターと協力しながら行っているところである。キャンセルする方は、午前と午後という形で予約をして、午前は自宅から目的地まで利用するが、帰りの時に予約したことを忘れているケースが多く、オペレーターも苦慮している状況である。先ほど事務局からの分析報告にあったように、どういう方のキャンセルが多いのかを調べて具体的な対策を練らなければいけないと考えている。また、利用者には認知症で予約を忘れてしまう方もいるので、そういう方には、福祉有償サービスに移行していただくなどの対応が必要になるかもしれない。

(委員) キャンセルについて、より具体的な対応策を立てないと今後キャンセル数は増加する一方であると思う。例えばポケベルのような通信装置を利用者に持たせて、予約の通知をするなどといったことはできないのか。

(委員) 携帯電話を利用している方にはオペレーターから携帯電話に連絡している。今後打開策を考えて実行していきたい。

(委員) キャンセル数について、キャンセルする回数の多い人がいるが、単年度だけではなく何年間かデータを取り、その年度だけキャンセル数が多い方なのか何年間もそうなのかなど、推移を見ながら指導方法を考えても良いのではないかと。また、別に 2 点ほどお話させていただくが、1 点目として、前回の三上委員からの話で南台区の住替えが進んでいる話があったが、前回から比べて新たな住替えはあったのか教えていただきたい。

(委員) 依然、南台区に住替える人は増えている。現在、自治会の予算編成期であり自治会員の人数の確認をしているところだが、南台の自治会員が増えている。ここ 1 年間住替えが進み、新しい人が入ってくる状態が続いており、ここ 2 ヶ月でも 4 件くらい南台区に入ってきている。

(委員) 前回の会議から南台区での住替えが進んでいるお話を聞いており、公共交通事業者としては公共交通が充実すると新しい人が住み着きます、という広報活動をする際の事例として南台区を参考にしているため動向は非常に気になっていた。2 点目は、高齢者の免許返納の促進率について、東海村は公共交通の密度が高い地域であることから、返納の促進率は高いのではないかと推測するが、例えば県の平均値と比べて高齢者の免許返納率は高いのか低いのかといったデータを取れば、今後の公共交通の充実と密度の高さが、免許返納促進の一つの要因になっているというお話ができると思うので、もしそういうデータがあれば教えていただきたい。

(事務局)免許返納に関して、昨年の12月から東海村高齢者運転免許証自主返納支援事業の支援内容として、デマンドタクシーの利用券等を交付しているが、1ヶ月弱で38件の免許返納があったと確認している。担当課である防災原子力安全課で、今年度分を取りまとめて、本村が県内でもどれくらいの返納率があるのかといったデータが出るかと思うので、次回の会議で実績や動向についてご報告できるものと考えている。また、先ほどありましたデマンドタクシーのキャンセルのデータについて、平成28年度の分析データを皮切りに継続的にデータを分析して、キャンセルしている方の動向の把握を行っていきたいと考えている。

(委員)南台区は現在予算編成中であり、認可地縁団体として税務署に源泉徴収の手続きをするため、自治会の役員は源泉徴収を提出することになる。一方で、47名いる班長には、報酬を払っており、班長の源泉徴収は出しませんということで税務署に理解をいただいているが、経費性を立証するよう言われている。来年度から、班長報酬の一部に経費が含まれていることを客観的に立証するために「いばっピ」の現物支給を考えている。役員も含めて約60名の方に1年間「いばっピ」を配るということで考える。

(委員)平成28年度のデマンドタクシーの利用分析ということで、膨大なデータを基に編集したものを説明していただいたが、このデータをどのように活用していくかが大切であると考えている。例えばこのデータで地域ごとの利用者の状況といったものを把握できるのか、東海駅から利用している人がどの地域にどのくらいいるのか等がわかれば、バス路線の編成にも活用できると思う。また、パーソントリップのデータもあったが、この分析データの今後の活用についてお聞かせいただきたい。

(事務局)パーソントリップについては、細かいデータがあるので各地区の利用人数や行先は把握できている。データの活用方法については、平成27年度に路線バスが本格運行を開始したこともあるので、例えば平成27年度の各地区のデマンドタクシーの利用状況と今年度の各地区のデマンドタクシーの利用状況を比べてみて、路線バスのバス停ができた地区のデマンドタクシーの利用者が減ったとなれば、路線バスに移行した可能性があるのではないか、といった数字が見て取れるようになると思う。新しい路線編成の際に有効な数字になると思う。デマンドタクシーのキャンセルについても、細かくデータを取ることで福祉的支援が必要な方がいるのかなど、対処方法が検討しやすくなると思う。いずれにせよ、複数年のデータ収集をした上で、今後の公共交通に反映していきたいと考えている。

(委員)(資料2)のまとめで、キャンセル対策について、リスト等を作成して各関係者に共有を図る必要があると記載があるが、共有を図るだけでなく、具体的にどういった対策が必要になるのかというところまで、今後検討していった欲しい。

(3)今後のスケジュール

○下記資料に基づき説明

(資料 3) 今後のスケジュール (予定)

(資料 3-1) プレスリリース「東海村の公共交通網がさらに拡充します」

(資料 3-2) 新路線 PR チラシ (通常)

(資料 3-3) 新路線 PR チラシ (笠松運動公園利用者向け)

(4)その他

なし

4. 閉会(まちづくり推進課)

・次回の公共交通会議は 6 月下旬を予定しております。組織改編の都合上、次回以降は企画経営課から通知させていただきます。